

令和7年度

「運営に関する計画」
(中間評価)

大阪市立常盤幼稚園

令和7年12月

大阪市立常盤幼稚園 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- コロナ禍において「学びを止めない」ために大阪市就学前教育カリキュラムをふまえ、本園の教育課程を見直してきた。その中でも一人一人の子どもの実態に応じた保育を展開している教育の発信が、保護者の安心安全な子育てには欠かせないと感じている。引き続き、教育内容の発信を工夫し、一人一人の子どもの育ちを保護者と共に喜び合い、保護者が子育ての喜びを味わえるようにすることが、課題である。
- 子どもたちは体を動かして遊ぶことが好きであるが、しなやかな体の使い方やバランスをとるなどに課題が見られる。そのため、日々の遊びの中で十分に体を動かす気持ちよさを体験し、多様な動きを経験する中で調整力を育て、自ら体を動かそうとする意欲を高めていくようにする。また、基本的な生活習慣の形成において、生活に必要な習慣を身につけ、次第に見通しをもって行動できるようにすることが課題である。幼稚園は、それらを保護者と共に進めていくことが大切であると考えている。
- 感染症対策や危機管理意識を継続しながら、教育内容の在り方を工夫するためには、教職員が知識や知恵を出し合って協働していく必要がある。全教職員の意識の共有や共通理解を深め、具体的で細やかな取り組みをチームで行い、子どもの豊かな育ちにつなげていくことが重要であると考えている。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 令和 7 年度末の保護者アンケートにおける「子どもは、安心して幼稚園に通いながら、成長している」に対し「そう思う」「ややそう思う」と答える保護者の割合を 90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和 7 年度末の保護者アンケートにおける「子どもは、自分の力で行動し、充実感を味わっている」に対し「そう思う」「ややそう思う」と答える保護者の割合を 90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和 7 年度末の保護者アンケートにおける「幼稚園は、教職員が一体となり、保護者や地域と連携しながら教育活動をすすめている」に対し「そう思う」「ややそう思う」と答える保護者の割合を 90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】**学校園の年度目標**

- 令和 7 年度末の保護者アンケートにおける「子どもは、安心して幼稚園に通いながら、成長している」に対し「そう思う」「ややそう思う」と答える保護者の割合を 90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】**学校園の年度目標**

- 令和 7 年度末の保護者アンケートにおける「子どもは、自分の力で行動し、充実感を味わっている」に対し「そう思う」「ややそう思う」と答える保護者の割合を 90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】**学校園の年度目標**

- 令和 7 年度末の保護者アンケートにおける「幼稚園は、教職員が一体となり、保護者や地域と連携しながら教育活動をすすめている」に対し「そう思う」「ややそう思う」と答える保護者の割合を 90%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

--

大阪市立常盤幼稚園 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○令和 7 年度末の保護者アンケートにおける「子どもは、安心して幼稚園に通いながら、成長している」に対し「そう思う」「ややそう思う」と答える保護者の割合を 90%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【②豊かな心の育成】</p> <p>全教職員が全園児一人一人に関わり、子どもが自己肯定感をもち、安心して過ごせるような援助の方法を工夫する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週 1 回以上の情報交換を実施し、チーム保育を実践する。 ・保護者に保育の内容を理解していただくように週 2 回以上、子どもの様子をホームページに掲載する。 ・月 1 回の保育室降園を活用し、保護者へ子どもの遊びの様子を伝えたり家庭での様子を聞きとったりする。 	C
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育後、教師同士で子どもたちの姿を共有しあう中で、一人ひとりに応じた関わり方や、保育の進め方について考える時間を確保できている。また、木曜日には環境図を用いて翌週の各クラスの取り組みや園内の環境構成について話し合い、チーム保育を意識しながら保育を進めるよう努めている。 ・指標では「週 2 回以上、子どもの様子をホームページに掲載する」とあるが、週 2 回以上の掲載が実施できていない。 ・月 1 回の保育室降園では、普段の遊びや活動を伝える際に、子どもたちの学びや気付きを伝え、今後育んでいきたいことを共有している。また、日々歌っている歌を聴いていただく機会を設けたり、保護者と子どもと一緒に手遊びや体操を楽しめる時間を取り入れたりすることで子どもの成長を喜び合えるようにしている。 ・降園時には家庭での様子を聞き取りながら、子どもたちが安心して登園できるよう、一人ひとりに応じた援助を検討し実践している。 <p>以上のことから。1 学期末の保護者アンケートでは、「そう思う」「ややそう思う」が 100%と高評価を得ることができた。</p>	

後期への改善点

- ・月初めの行事予定を確認する場で、行事ごとにホームページの担当者を決め、計画的に掲載できる体制を整えていく。これにより、滞りなく情報を発信し、保護者に保育の内容を理解していただけるように取り組んでいく。
- ・現状では環境図を用いた話し合いが十分に行えておらず、実施が時々留まっている。そのため、担当教師が主体となって定期的に環境図を活用した話し合いの時間を設定し、継続的に進めていけるようにしていく。保育後の情報共有については引き続き子どもの姿やクラスの様子を伝えあいながら、全園児の共通理解を深めていく。

大阪市立常盤幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 学校園の年度目標 ○令和7年度末の保護者アンケートにおける「子どもは、自分の力で行動し、充実感を味わっている」に対し「そう思う」「ややそう思う」と答える保護者の割合を90%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【④誰一人取り残さない学力の向上】 子どもが主体的に活動できるよう、大阪市就学前教育カリキュラムを参考に教育課程を見直し、環境や働きかけを工夫する。	B
指標 ・学期に1回以上、実践記録をとり教職員で学び合う機会として検討会を実施する。 ・研修を受け、年に3回以上、幼稚園教育要領の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や大阪市就学前教育カリキュラム「知・徳・体」の視点から子どもの育ちを発信する。	
取組内容②【⑤健やかな体の育成】 子どもが基本的な生活習慣を身につけ、生涯にわたって健康で安全な生活を送ることができるよう、保護者と連携し、園生活を通して一人一人の発達に応じたしなやかな心と体を育成する。	B
指標 ・月に1回、子どもの発達段階や実態に応じた保健指導を行う。 ・月に1回、保健指導の内容で『がんばりひょう』を実施するとともに、その提出率を90%以上にする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容① ・5月、7月、9月の計3回、第4ブロック研究主題である「遊びの中の学びを探る」を基に各クラスの子どもの姿を記録したが、教職員間での検討会が不十分であった。幼児の実態を踏まえながら、教師の教育的意図をもった働きや環境についてなど、教職員同士で意見を出し合い、学びを深めるように検討時間を確保していきたい。 ・1学期末には、各担任が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や「知・徳・体」の視点から写真と文字で保護者向けに掲示をつくり、クラスの遊びや子どもの育ちを発信する機会をつくった。また、その掲示を見ていただくだけではなく各クラスの保護者が一度に集まる場で担任の言葉で掲示を説明する機会をつくったことで、保護者への理解が高まった。 ・毎月の誕生会で、ふれあい遊びを取り入れることで、全園児と一緒に遊ぶ機会となり、異年齢の友達とかかわるきっかけになっている。また、年長児が年少児の手をつないで園外保育に参加したり、園外保育前には全園児でホールに集まり一緒に弁当を食べ、好きな遊びができる場所を設けたりして、異年齢で自然と触れ合える環境を準備したことで、異年齢の子どもたちにも関心をもったり、思いやりや憧れの気持ちをもったりし、主体的に遊ぶ姿が見られるようになった。

取組内容②

・月に1回保健指導を行うことができた。

4月 手洗い

5月 熱中症予防

6月 歯みがき

7月 生命の安全教育

8月 早寝・早起き・朝ごはん

9月 けがの予防

10月 手先をきたえる

11月 食育（三色栄養）

子どもの実態や発達段階、気候等に応じて指導内容を検討し、エプロンシアターやスライドショー、掲示物など、発達段階に応じた視覚物や教材を活用した保健指導を行った。様々な視覚物や教材を活用したことで、子どもが興味をもって話を聞くことができ、基本的な生活習慣が身に付きやすくなった。

具体的に口や歯の健康については、保護者へも咀嚼の重要性を伝えるため、咀嚼チェックガムを用いた『咀嚼力チェック』を5歳児親子で実施したり、3・4歳児親子には、『親子歯みがき指導』を行い、保護者講話と歯垢染色や仕上げみがきを実施した。

けがの予防については、5歳児が園内で危険な箇所（ケガをしそうな箇所）はないかを探し、「この扉は指を挟みそう」「階段で下を覗くとあぶないよね」と自分たちで『気を付けて！』マークを貼る保健指導を行った。その後、『気を付けて！』マークのある場所はケガをしやすい所なので、気を付けてね」と3.4歳児に声をかける姿も見られた。

食育については、4歳児が、おにぎりや様々のおかずを作る活動をした。「このおかずは体を作る食べるんレッドのチームだね」と自分が作った物を利用して指導したことで、理解が進んだ。

生命（いのち）の安全教育については、幼稚園での取組を保護者会で、保護者に向けて伝えた。その後の『がんばりひょう』の感想で、保護者が「大事なことですね」というコメントがあり、生命（いのち）の安全教育の大切さを理解していただけていることが分かった。

早寝・早起き・朝ごはんについては、ヤクルト出前授業を行い、啓発に努めた。保護者も19名参加され、意識の高さを感じた。

保健指導後は、家庭でも指導内容に取り組む『がんばりひょう』を実施し、幼稚園と家庭の両面から基本的な生活習慣の定着を図った。提出率 97.4%（12月2日現在）

『がんばりひょう』に取り組んでもらえる工夫として、ごほうびシールを作成し『がんばりひょう』に取り組んだ子どもが自分でごほうびシールを貼れるようにしたり、保護者へ個別に声掛けをしたりした。

以上のことから、1学期末の保護者アンケートでは、「そう思う」「ややそう思う」が96%と高評価を得ることができた。

後期への改善点

- ① 今後も、実践についての話し合いや掲示物作成などを通し、教職員同士で学びあう機会をもち、資質向上につなげたい。
- ② 子どもたちが基本的な生活習慣を身に付けること、また自分自身や友達を大切にしようとする気持ちを育むことができるよう、今後も継続した取組を実施していく。
『がんばりひょう』が発達段階に応じたものになるよう工夫する。

大阪市立常盤幼稚園 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○令和 7 年度末の保護者アンケートにおける「幼稚園は、教職員が一体となり、保護者や地域と連携しながら教育活動をすすめている」に対し「そう思う」「ややそう思う」と答える保護者の割合を 90%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【⑨家庭・地域等との連携・協働した教育の推進】</p> <p>異校種との交流や地域との連携を深め、身近な人に親しみながら地域への関心を高めたり、小学校生活への円滑な接続につなげたりする。</p> <p>指標 ・学期に 2 回以上、様々な方法で地域や学校園、保育所等と交流をする。</p>	B
<p>取組内容②【⑦人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>専門機関とも連携し、子どもの姿や育ちについて意見を出し合い、幼児理解を深める。</p> <p>指標 ・資質向上のため、専門機関とも連携しながら、園内研究会を学期に 1 回実施する。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①</p> <p>1 学期から地域や異校種の交流を積極的に取り入れ、地域に親しみの気持ちをもったり、色々な人との関りを楽しんできた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月 1～2 回、地域の未就園児を対象に園庭開放を実施し、年下の友達への思いやりの気持ちが育っている。 ・4、5 月には、近隣散歩をし、区役所の安全パトロールの方にも来ていただき、交通ルールについて分かりやすく教えてもらった。また、地域の方に、たくさん飾ってあるこいのぼりを見せていただき、伝統文化にも親しんだ。 ・6 月に 5 歳児、10 月に 4 歳児がおそうじデーを実施した。地域の方とペアになって、近所の公園を掃除し、終了後は、園に来ていただき、お礼に歌をうたい感謝の気持ちを伝えた。 ・工芸高校の生徒が園に遊びに来てくれて、子どもたちと様々な遊びを楽しんだ。園児の実態を知り、子どもたちのためにごっこ遊びグッズなど、こちらの希望もふまえ、プレゼンテーションを行ってくれた。1 月に、出来上がった物を贈呈してくれる予定。 ・親子まつりでは、保護者の方が工夫を凝らし、今年度は関西万博をテーマに、子どもたちが楽しめるようにたくさんのお店を準備して下さり、親子で店をまわり、やりとりを楽しんだ。 ・博覧会前日に 1 年生の先生、当日には校長先生が、子どもたちの作品や絵を見に来てく

ださった。園の実態などを知っていただく良い機会になった。また、12月、1月に小学校との交流を予定している。これが円滑な接続のきっかけになればと思う。

- ・9月に三明保育園の5歳児を園に招待し、一緒に遊ぶ機会をもった。地域の同じ5歳児と触れ合うことができ、歌を聴きあったり、一緒にふれあい遊びを楽しんだりし、親しみの気持ちをもつことができた。10月には、文の里中学校の体育祭に参加させてもらい、大きいグラウンドのトラックを中学生に手をひいてもらって走ったり、中学生の走る姿を見せてもらい、憧れの気持ちや刺激を受ける機会になった。また、11月には大阪市立幼稚園音楽会に参加し、歴史ある中央公会堂で、7園の子どもたちと、一緒に気持ちをひとつにし、声を合わせて歌うことを楽しんだ。11月23日、あべの文化祭では、大きなホールで歌う機会をいただき5歳児は、聞いてもらうことを楽しむようになってきた。

取組内容②

- ・専門機関からの担当者の訪問、そこでいただいた指導内容を幼児理解につなげている
訪問いただいている専門機関：神戸国際大学の非常勤講師（学期に2回）、療育の先生（保護者からの希望による）区の子育て支援（学期に1回）
- ・園内研究を学期に1回実施をすすめている。（●7月実施済み○12月に1クラス、1月に2クラス実施予定）

以上のことから、1学期末の保護者アンケートでは、「そう思う」「ややそう思う」が91%と高評価を得ることができた。

後期への改善点

- ・地域や異校種との交流を今後も実施する予定である。一つ一つの活動が、その場だけのものにならないように、事前事後の打ち合わせや活動も大切にしていきたい。
- ・幼稚園での生活や遊びで得た学びを、小学校へつないでいけるような具体的な手立てを、阿倍野区の小学校の実態を把握しながら、小学校の先生方と共に考えていきたい。
- ・今後も様々な専門機関と連携しながら、一人一人の幼児理解を深めていきたい。また、園内研究などを通し、教員の資質向上につなげたい。